

みみタロウ

日本語版 ☆ 137号 2020年10月

滋賀県国際協会 ボランティアグループ「みみタロウ」
おまつし びあざおうみ
大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2F

Tel : 077-523-5646
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : http://www.s-i-a.or.jp
f : https://www.facebook.com/siabiwako



ちいき ひとびと とも 地域の人々と共に

今回みみタロウは、おまつし しょうぼうだんいん エドワード イワスコさん（おまつしさいじゅう）にお話を伺いました。



カナダに留学していた日本人の妻と結婚し、ちょっと日本を体験するつもりでやって来て、いつの間にか14年です。妻と二人で英会話スクールを経営し、家事も育児も一緒にしています。日々の暮らしの中

で小さな文化の違いもあり、戸惑うこともあります。理解することですまく乗り越えています。そしてそんな僕の生活に彩りを添えてくれるのが、ご近所さんとのお付き合いです。

僕のご近所さんは皆さんとても優しい人々で、半世紀程も助け合って暮らしてきた仲良しです。僕たち一家もその仲間に加えていただき、近所の活動にも参加しています。その中でも僕が一番のお気に入り、地域の運動会です。近所には若い人が少ないので、僕たちは地元チームに欠かせない出場メンバーで、沢山の声援を受けて頑張ります。また地域の清掃では、背の高い僕は高い棚や上の方の窓や傾斜地などを任せられ、喜んでいただいています。そうした中、近所の人から「エドさんは若いし、走るのも早くて強そうなので、消防団に入りませんか」と声がかかりました。僕自身、カナダでも18歳から4年間消防団員をしていたので、大喜びで地域の消防団員になり、今年で10年目です。

消防団員は普段、それぞれ仕事を持っていますが、火事や地震、台風などの災害時には、住民の避難誘導や救助などの防災活動を行います。このため、火事や災害のおそれのある時には呼び出しがあり、緊急時に備えます。それ以外にも、消防車での地域の見回りや山火事訓練、その他、管轄区の家を訪問し、防災の啓発などを定期的に行っています。だから、避難所だけでなく地域のこと、地元の皆さんのことをとてもよく知っていますよ。

日本とカナダの消防団員は任務が多少異なります。私の実家はカナダの田舎の島にあり、消防士が船やヘリコプターで到着するまで30分かかります。このため、火事、事故、停電、水害などなんでも消防団員が駆けつけ、第一線で活動します。日本では、消防士が中心になって活動し、消防団員はそのサポート業務に就きます。火事の際には、消防団員は給水や車の誘導などの消火活動の後方支援を行い、火の中には入りません。でも、どちらの国でも、消防団の活動の魅力は、何と言っても団員の団結心です。

火事が収束した後、再び出火しないように24時間現場を見守るのも消防団員の仕事です。その間、僕たちは現場を確認しながら皆で車座になって過ごします。そこに地域の人々が労をねぎらいに、カップヌードルやクッキーなどの差し入れを持って来てくれます。無事に鎮火した安堵の中、沢山の火々と心の通い合うこの時間は格別です。夜明け前、新聞屋さんからいただいた朝刊に、現場の火事の記事が載っていたりすると、皆で盛り上がるんですよ。

消防団以外の地域活動では、自治会やPTAにも参加しています。これらの活動も一応ボランティアなのですが、忙しくてなかなか断れないなどの状況があるため会員の負担が大きく、運営が難しいと感じています。しかもどの団体も昔と比べて会員数が少なくなっているのに、これまでと同じ事業を続けているので大変です。だから「皆やりたくない、でも今までそうしてきたから変えられない」といった困った状態があるのですね。日本には我慢の文化、変わらず続ける文化があって、それで伝統が継承されている良い面もありますが、状況に合わせて柔軟に見直すことも大切ですね。

これからも大好きな地元の一員として、皆さんと一緒に助け合って楽しく暮らしていきたいと思えます。